



災害危険区域の市道であった自動運転の実証実験。人が乗っているが、ハンドルは握っていない＝27日午前、仙台市若林区、福留庸友撮影

自動運転、荒浜地区で実験

仙台 災害危険区域の市道

過疎地での移動や災害時の避難に活用が期待される自動運転車の走行実験が27

日、仙台市若林区の荒浜地区であった。震災で津波をかぶり、住宅が建てられな

い災害危険区域の市道を使い、ハンドル操作なしで車が走った。

この車は、東北大の未来科学技術共同研究センターが開発した1人乗りの小型電気自動車。公道のため運転手が乗り込んだが、ハンドルからは手を離したまま。自動でハンドルが回り、最高時速15キロで直進と左折を繰り返して約300メートルのコースを一周すると、集まった人たちから拍手が湧いた。

近くの旧荒浜小の校庭で、運転席に人が乗らずに走らせる実験もした。同じ校庭では3D地図を作るドローンの飛行実験もあった。

実験後、奥山恵美子市長は「被災したまちが未来のために役立つことは、被災

者の希望にもなる」と話した。
(船崎 稔)